

平成28年度全国学力・学習状況調査結果（概要版）

H28.9.29 福島県教育委員会

1 調査に関する概要

実施日	平成28年4月19日（火）	
実施校数	小学校 448 校（15,728人）	中学校 223 校（16,906人）
調査学年	小学校 6 年生	中学校 3 年生
調査教科	小学校 国語、算数	中学校 国語、数学

※ 特別支援学校（小学部）及び特別支援学校（中学部）を含む。

2 教科に関する調査の結果

《教科に関する調査の結果の総括（公立）》

- 本年度の全国学力・学習状況調査における結果は、昨年度と比較してやや改善傾向が見られた。特に、小学校算数においてはその成果が現れてきた。
- 小学校国語はおおむね全国平均であるが、小学校算数及び中学校国語は全国平均をやや下回っており、中学校数学は全国平均を下回っている。
- 今後、児童生徒に生きて働く知識や技能を身に付けさせるために、「わかる・できる授業」を目指して、課題の精選、言語活動の充実、指導と評価の一体化などの視点から授業を抜本的に見直し、質的改善を図っていくことが必要である。
- 児童生徒の学力や学習状況を多面的に分析し、児童生徒一人一人へのきめ細かな支援や学習状況の改善等に取り組んでいく必要がある。

（1）小学校 国語

- 国語Aの平均正答率は73.3%（全国72.9%）、国語Bの平均正答率は56.6%（全国57.8%）であり、国語Aについては、おおむね全国平均であるが、国語Bにおいては全国平均をやや下回っている。
- 今後は、育てる力を明確にし、言語活動の充実を図った授業を展開することで、基礎的・基本的な知識・技能をより確かに定着させるとともに、それらを活用しながら主体的に課題を解決していく力を育成していくための取組を充実させていくことが求められる。

① 国語A（主として「知識」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率（%）
福島県	15,728	448	73.3
全国	1,021,905	19,335	72.9

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率（%）
福島県	15,721	447	56.6
全国	1,021,635	19,333	57.8

(2) 小学校 算数

- 算数Aの平均正答率は77.2%（全国77.6%）、算数Bの平均正答率は46.2%（全国47.2%）であり、算数Aについては、おおむね全国平均であるが、算数Bについては、全国平均をやや下回っている。
- 今後は、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを実生活の様々な場面に活用する力や筋道立てて考え表現する力の育成に向け、一層効果的な指導方法を工夫していく必要がある。

① 算数A（主として「知識」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	15,726	448	77.2
全国	1,021,910	19,335	77.6

② 算数B（主として「活用」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	15,720	448	46.2
全国	1,021,637	19,334	47.2

(3) 中学校 国語

- 国語Aの平均正答率は75.5%（全国75.6%）、国語Bの平均正答率は65.0%（全国66.5%）であり、国語Aは、おおむね全国平均であるが、国語Bは、全国平均をやや下回っている。
- 今後は、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、それらを活用して課題を解決していく能力の育成に向けて、より一層効果的な言語活動を位置付けていく必要がある。

① 国語A（主として「知識」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,903	223	75.5
全国	996,188	9,464	75.6

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,906	223	65.0
全国	996,365	9,464	66.5

(4) 中学校 数学

- 数学Aの平均正答率は 59.0 % (全国 62.2 %)、数学Bの平均正答率は 41.2 % (全国 44.1 %) であり、中学校数学については、全国平均を下回っている。
- 今後は、数学的活動をより一層重視して、生徒の主体性を引き出す展開を工夫するとともに、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させる指導の充実とそれらを活用する力の育成に向けた指導の工夫・改善を図る必要がある。

① 数学 A (主として「知識」に関する問題)

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,906	223	59.0
全 国	996,502	9,461	62.2

② 数学 B (主として「活用」に関する問題)

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,903	223	41.2
全 国	996,578	9,460	44.1

3 児童生徒質問紙調査の結果

〈質問番号〉：(11)

「普段 (月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか (勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)」について

- 月～金曜日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり聞いたりしている小学生の割合は 32.9 %、中学生の割合は 23.1 % であり、小学生は全国の割合 (32.8 %) より高く、中学生は全国の割合 (24.1 %) より低い。
- 27年度調査と比較すると、小学生で 2.5 ポイント、中学生で 5.9 ポイント低くなっている。
- 20年度の調査では、小学生が 50.3 %、中学生が 41.6 % だったことから、テレビ等の視聴時間はかなり減少している。生み出された時間の有効活用について、家庭と十分に連携を図っていく必要がある。

〈質問番号〉：(12)

「普段 (月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム (コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む) をしますか」について

- 月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している小学生の割合は 28.8 %、中学生の割合は 34.3 % であり、どちらも全国の割合 (小：29.7 %、中：34.9 %) より低い。
- 27年度調査と比較すると、小学生で 1.7 ポイント、中学生で 1.6 ポイント低くなっている。
- 19年度の本調査開始以降、ゲーム等に費やす時間は年々減少しているが、そのことが必ずしも学力向上に結び付いているとは言えない。学力向上に必要なことは何か、様々な視点から児童生徒自身にも考えさせたい。

〈質問番号〉：(14)

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について

- 学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間については、月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合は73.4%、中学生の割合は72.1%であり、どちらも全国の割合（小：62.5%、中：67.9%）より高い。
- 月～金曜日の学習時間が30分より少ない、または全くしない小学生の割合は5.8%、中学生の割合は9.1%であり、どちらも全国の割合（小：11.9%、中：14.4%）より低い。
- 月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合を27年度調査と比較すると、小学生で1.0ポイント高く、中学生で0.9ポイント低くなっている。
- 月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合は、19年度よりも小学生で10ポイント以上、中学生で8ポイント以上高くなっている。前述したテレビ等の視聴時間やゲーム等に費やす時間が減少する一方で、学習時間が増加していることは喜ばしいことであり、各学校における指導の成果であると言える。今後は学習時間の増加が児童生徒の学力向上に結びつくよう、授業と家庭学習を今以上に連動させていくことが望まれる。

4 生活圏別平均正答率の状況

○ 県内の生活圏別（県北、県中、県南、会津、南会津、相双・いわきの6地域）平均正答率の順位は、科目ごとにばらつきが見られる。それぞれの地域の成果と課題を詳細に分析して、地域の実態を踏まえた授業改善等の取組を更に強化していく必要がある。

